

SBウォール工法 標準積算資料

平成 25 年 7 月版

SBウォール工法研究会

目 次

1	S Bウォール工法	1
2	適用範囲	2
3	施工概要	2
3.1	施工フロー	2
4	積算条件	3
4.1	工種構成	3
4.2	使用機械	4
4.2.1	仮設工（参考）	4
4.2.2	外部保護材基礎均しコンクリート工.....	4
4.2.3	上下流面外部保護材組立工.....	4
4.2.4	内部材製造工.....	5
4.2.5	内部材施工.....	5
4.2.6	コンクリート打設工.....	5
4.2.7	水抜き暗渠設置工.....	6
4.3	使用材料	6
5	標準歩掛	7
5.1	仮設工（参考）	7
5.2	外部保護材基礎均しコンクリート工	15
5.3	上下流面外部保護材組立工	17
5.4	内部材製造工	19
5.4.1	混合材料.....	19
5.4.2	内部材製造・運搬.....	20
5.4.3	ダンプ運搬.....	21
5.4.4	内部材施工（敷均し・締固め）	21
5.4.5	内部材製造・施工機械運転単価表.....	23
5.4.6	粒径処理（現地材ふるい分け）	23
5.5	コンクリート打設工	25
5.6	水抜き暗渠設置工	28
6	単価表及び内訳表	29
6.1	仮設工（参考）	29
6.2	外部保護材基礎均しコンクリート工	35
6.3	外部保護材組立工	36
6.4	内部材製造工	38
6.5	内部材施工	40
6.6	コンクリート打設工	41
6.7	水抜き暗渠設置工	43

1 SBウォール工法

SBウォール工法は、INSEM工法¹⁾ およびL.U.C.工法²⁾ により構築した堤体内部材を上下流の外部保護材（上流壁面材は軽量鋼矢板，下流壁面材はコンクリートブロック）で保護することにより，土石流対策堰堤，砂防堰堤等に要求される耐摩耗性，耐衝撃性，耐久性及び景観性を向上させ，現地発生土砂の有効活用による建設環境の向上およびコスト縮減，設計施工の合理化を図ろうとするものである。

本工法の特徴は，以下のとおりである。

1) 設計上の特徴（材料に要求される品質）

外力に対し内部材の重量で抵抗させることから，従来からの重力式構造物の手法で設計が行える。

2) 構造上の特徴

内部に INSEM 材および L.U.C. 材（以下「内部材」と称す），外部保護材に軽量鋼矢板とコンクリートブロックを用いるなど，それぞれの部位に求められる品質に対して，材料の特徴を生かした部材を使用したシンプルで合理的な構造である。

3) 施工上の特徴

INSEM 工法および L.U.C. 工法の施工方法はフィルダムの施工とほとんど変わらず，特別な施工機械，施工技術を必要としない。また，構築時は連続施工が可能で，工期の短縮が図られるとともに，型枠を兼用した外壁材の効果で仮設足場を割愛できる等，総合的に施工面での合理化が図れる。

4) 経済性の特徴

汎用性の高い材料・機械を用いて製造された内部材を使用し，合理化施工を実施することにより，従来のコンクリート堰堤と比較してコスト縮減が可能である。

SBウォール工法の積算は，現段階において収集された施工実績に基づく標準歩掛りと使用機械及び使用材料を編集したものである。また，本積算資料は内部材にクラッシュラン等の混合材料を用いる場合についても準用する。

¹⁾ INSEM 工法とは：「SBウォール工法設計施工マニュアル」（SBウォール工法研究会）参照。

²⁾ L.U.C. 工法とは：「SBウォール工法設計施工マニュアル」（SBウォール工法研究会）参照。

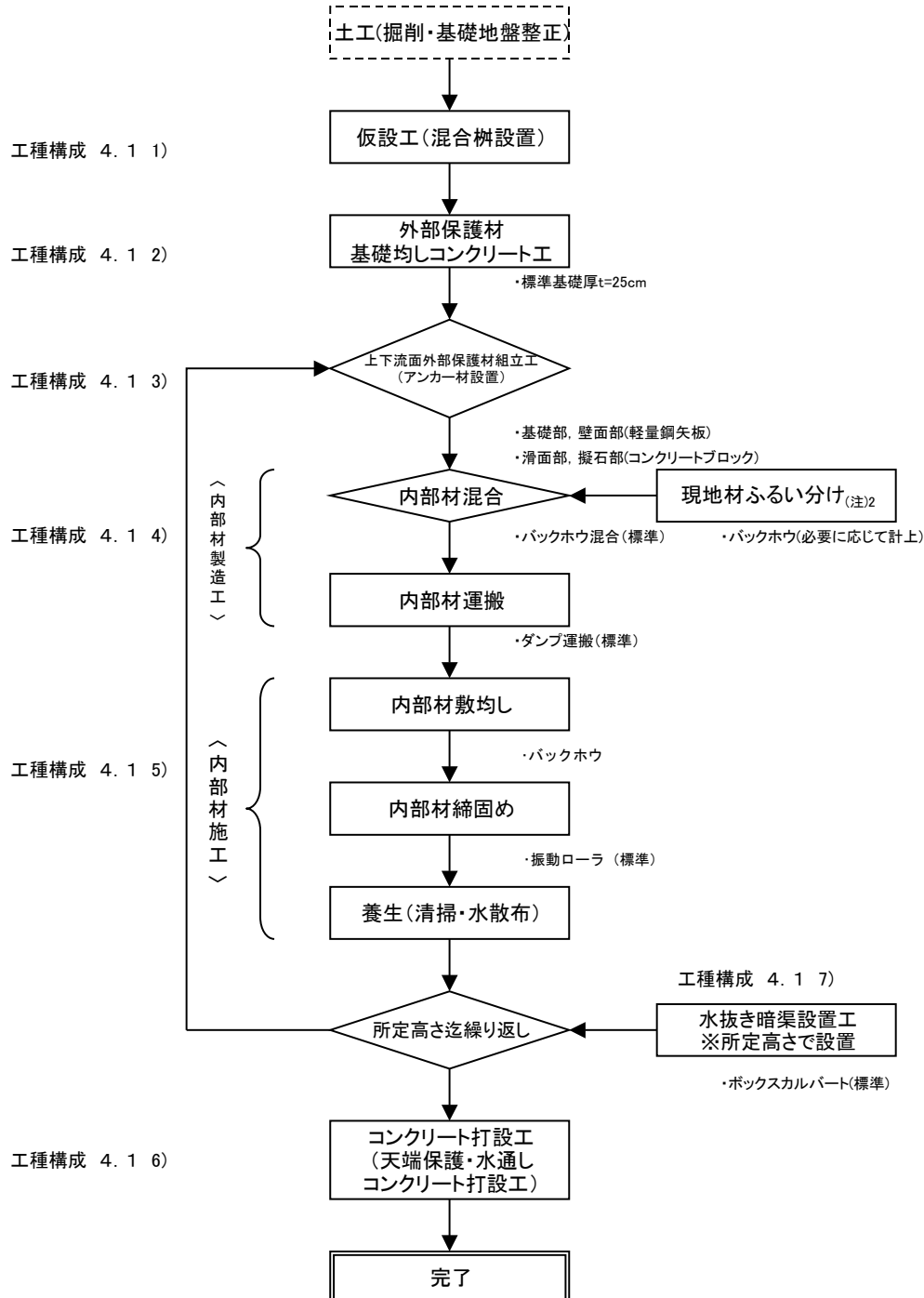
2 適用範囲

本資料は、SBウォール工法（INSEM-SBウォール工法，LUC-SBウォール工法）の施工に適用する。

3 施工概要

3.1 施工フロー

SBウォール工法における標準的な施工フローを以下に示す。



(注) 1. 本歩掛に適用する工種は、実線部分のみである。

(注) 2. 現地材ふるい分けについては、必要に応じて計上する。

図- 3-1 施工フロー

4 積算条件

4.1 工種構成

本積算における直接工事費の標準的な工種構成は次のとおりである。

1) 仮設工（参考）

- ① 土工（掘削・基面整正・埋戻）
- ② 混合桝（設置・撤去）

2) 外部保護材基礎均しコンクリート工

- ① コンクリート（打設・養生）
- ② 型枠（製作・設置・撤去）

3) 上下流面外部保護材組立工

- ① 壁面材（軽量鋼矢板）組立
- ② 壁面材（コンクリートブロック）組立

4) 内部材製造工

- ① 混合材料
- ② 内部材混合・運搬（投入・混合・積み込み・運搬）
- ③ 現地材ふるい分け（現地発生土砂および改良材等のふるい分け）

5) 内部材施工

- ① 内部材施工（敷均し・締固め）
- ② 養生（打設面清掃・水散布）

6) コンクリート打設工

- ① 天端保護，水通しコンクリート（打設・養生）
- ② 天端保護，水通し型枠（製作・設置・撤去）
- ③ 天端保護，水通し足場（設置・撤去）

7) 水抜き暗渠設置工

- ① ボックスカルバート据付

4.2 使用機械

4.2.1 仮設工（参考）

仮設工（土工・混合柵設置撤去）に使用する機械は、次表を標準とする。

表- 4.2.1 使用機械(1)

作業内容	機械名	規 格	摘 要
掘削	バックホウ	排出ガス対策型・クロー型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	
埋戻し a	バックホウ	排出ガス対策型・クロー型山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	
	タンパ	60~100 kg	
埋戻し b	バックホウ	排出ガス対策型・クロー型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	
	タンパ	60~100 kg	
	振動ローラ	ハンドガイド式 0.8~1.1 t	
設置・撤去	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型・油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	(注)1.

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

4.2.2 外部保護材基礎均しコンクリート工

外部保護材基礎均しコンクリート工に使用する機械は、次表を標準とする。

表- 4.2.2 使用機械(2)

作業機械	機械名	規 格	摘 要
コンクリート投入	コンクリートバケット	手動ローラゲート式 1.0m ³	
	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型・油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	(注)1.
型枠組立・解体	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型・油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	(注)1.

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

4.2.3 上下流面外部保護材組立工

外部保護材組立工に使用する機械は、次表を標準とする。

表- 4.2.3 使用機械(3)

作業内容	機械名	規 格	摘 要
組 立	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型・油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	搬入設置に使用 (注)1.
	人 力	—	組立・調整等

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

4.2.4 内部材製造工

内部材製造工（現地ふるい分け，内部材製造，運搬）に使用する機械は，次表を標準とする。

表- 4.2.4 使用機械 (4)

(注)1.

作業		標準機種		
		機械名	規格	摘要
現地材ふるい分け		バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値）・クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	必要に応じて計上する。
内部材製造	製造	バックホウ	クレーン機能付き・排出ガス対策型（第2次基準値）クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	(注)2.
	運搬	ダンプトラック	普通 10t 積み	

(注) 1. 現場条件により，上記により難しい場合は別途計上する。

(注) 2. バックホウ（クレーン仕様）は，「クレーン等安全規則」，「移動式クレーン構造規格」に準拠した機械である。

4.2.5 内部材施工

内部材施工（敷均し・締固め）に使用する機械は，次表を標準とする。

表- 4.2.5 使用機械 (5)

(注)1.

作業		標準機種		
		機械名	規格	摘要
内部施工	敷均し	バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値），クローラ型山積み 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）	
	締固め	振動ローラ	排出ガス対策型（第1次基準値）・コンバインド型 搭乗式 3.0～4.0t	

(注) 1. 現場条件により，上記により難しい場合は別途計上する。

4.2.6 コンクリート打設工

コンクリート工に使用する機械は，次表を標準とする。

表- 4.2.6 使用機械(6)

作業機械	機械名	規格	摘要
コンクリート投入	コンクリートバケット	手動ローラゲート式 1.0m ³	
	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型・油圧伸縮ゾブ型 25 t 吊	
型枠組立・解体	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型・油圧伸縮ゾブ型 25 t 吊	

(注) 1. ラフテレーンクレーンは，賃料とする。

4.2.7 水抜き暗渠設置工

水抜き暗渠設置工に使用する機械は、次表を標準とする。

表- 4.2.7 使用機械(7)

作業機械	機械名	規格	摘要
水抜き暗渠設置 (ボックスカルバート)	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型・油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

4.3 使用材料

S B ウォール工法に用いる材料は、以下に記すものを標準とする。

1) 内部材

- ① 主 材 料：現地発生土砂およびクラッシュラン C-40(再生クラッシュラン RC-40 も可能)
- ② セメント：高炉セメントB種
- ③ 水：内部材の硬化等に影響を及ぼさないもの

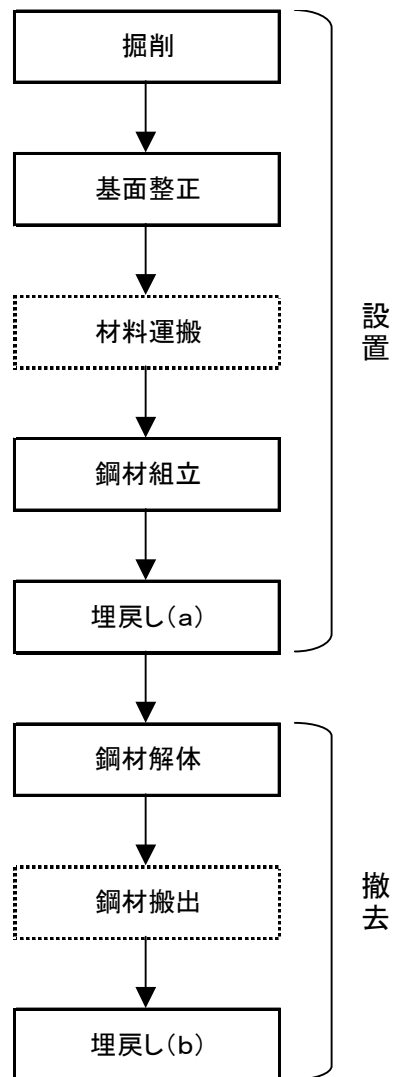
2) 外部保護材

- ① 上流外部保護材：軽量鋼矢板，溝形鋼，山形鋼，異形棒鋼他
- ② 下流外部保護材：コンクリートブロック，山形鋼，異形棒鋼他

5 標準歩掛

5.1 仮設工（参考）

仮設工は図- 5-1 に示す鋼製混合柵の設置・撤去について表したものである。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図- 5-1 混合ヤード設置・撤去フロー

(1) 土工

1) 施工歩掛

① 掘削

バックホウによる掘削作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表- 5.1.1 日当り施工量

機械名	規格	土質名	単位	数量	
				障害なし	障害あり
バックホウ	排出ガス対策型(第1次基準値)・クローラ型山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	礫質土・砂・砂質土・粘性土	m ³	220	160

(注) 1. 地山の掘削

障害なし：構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されないオープン掘削の場合。

障害あり：作業において障害物等により施工条件に制限がある場合。

2. 基面整正が必要な場合は、基面整正100m²当り普通作業員2人を別途計上する。

② 埋戻し：a

山積0.45m³のバックホウ等による埋戻し作業の施工量は、次表を標準とする。

表- 5.1.2 埋戻し歩掛 (100m³当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	4.0	敷均し補助
バックホウ運転	排出ガス対策型(第1次基準値)・クローラ型山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	h	6.0	
タンバ締固め	60~80 kg	m ³	100	

表- 5.1.3 締固め歩掛 (100m³当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	3.0	締固め補助
タンバ運転	60~80 kg	日	3.0	

③ 埋戻し：b

山積 0.8m³バックホウ等による埋戻し作業の施工量は、次表を標準とする。

表- 5.1.4 バックホウ山積 0.8m³埋戻し歩掛 (100m³当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	4.0	敷均し補助
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値)・クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	h	4.0	
振動ローラ運転	ハンドガイド式 0.8~1.1 t	日	1.35	
タンパ締固め	60~80 kg	m ³	10	

(注) タンパ歩掛は表- 5.1.3による。

2) 単価表

a) 掘削

① 掘削 100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運転	排出ガス対策型(第1次基準値)・クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	日	100/D	表- 5.1.1
諸雑費		式	1	
計				
1.0m ³ 当り				

(注) D：日当り施工量

② バックホウ運転 1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
運転手(特殊)		人		
燃料費		リットル		
機械損料		供用日		
諸雑費		式	1	
計				

b) 基面整正

① 基面整正 100m²当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		
諸雑費		式	1	
計				
1.0m ² 当り				

c) 埋戻し：a

① 埋戻し 100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表- 5.1.2
バックホウ運転	排出ガス対策型(第1次基準値)・クローラ型山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	h		〃
タンパ締固め	60～80 kg	m ³		〃
諸雑費		式	1	
計				
1.0m ³ 当り				

② バックホウ運転 1 時間当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
運転手(特殊)		人	1/T	
燃料費		リットル		燃料消費率 0.175
機械損料	排出ガス対策型(第1次基準値)・クローラ型山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	h	1	
諸雑費		式	1	
計				

(注) T：運転日当り運転時間

③ タンパ締固め 100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表- 5.1.3
タンパ運転	60～80 kg	日		〃
諸雑費		式	1	
計				
1.0m ³ 当り				

④ タンパ運転 1 日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		
燃料費		リットル		
賃料		日		
諸雑費		式	1	
計				

d) 埋戻し : b

① 埋戻し 100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表- 5.1.4
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値)・クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	h		//
振動ローラ運転	ハンドガイド式 0.8~1.1 t	h		//
タンパ締固め	60~80 kg	m ³		//
諸雑費		式	1	
計				
1.0m ³ 当り				

② バックホウ運転 1時間当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
運転手(特殊)		人	1/T	
燃料費		リットル		燃料消費率 0.175
機械損料		h	1	
諸雑費		式	1	
計				

(注) T : 運転日当り運転時間

③ 振動ローラ (ハンドガイド式) 運転 1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		
燃料費		リットル		
賃料		日		
諸雑費		式	1	
計				

④ タンパ締固め 100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表- 5.1.3
タンパ運転	60～80 kg	日		〃
諸雑費		式	1	
計				
1.0m ³ 当り				

⑤ タンパ運転 1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		
燃料費		リットル		
賃料		日		
諸雑費		式	1	
計				

(2) 鋼材組立・解体

1) 施工歩掛

鋼材の組立・解体の施工歩掛は次表を標準とする。

表- 5.1.5 組立・解体歩掛

名称	規格	単位	設置	撤去
世話役		人	1.7	1.0
溶接工		人	1.7	1.0
普通作業員		人	1.7	1.0
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジブ型25t吊	日	1.7	1.0
諸雑費率		%	4	6
歩掛算出の施工質			材料の全質量	

(注) 1. ラフテレーンクレーンは賃料とする。

2. 諸雑費率は、溶接機 250A (交流アーク式またはディーゼルエンジン付)、溶接棒、アセチレンガス、酸素等の費用であり、労務費の合計額に諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。

3. 鋼材は別途計上する。

2) 単価表

a) 鋼材組立・解体

① 鋼製混合ヤード組立・解体単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
鋼材賃料		日		賃料+整備費
鋼材組立		t		
鋼材解体		t		
諸雑費		式	1	
計				

② 組立 10t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表- 5.1.5
溶接工		人		〃
普通作業員		人		〃
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第 1 次基準値)油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				
1.0t 当り				

(注) ラフテレーンクレーンは賃料とする。

③ 解体 10t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表- 5.1.5
溶接工		人		〃
普通作業員		人		〃
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第 1 次基準値)油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				
1.0t 当り				

(注) ラフテレーンクレーンは賃料とする。

5.2 外部保護材基礎均しコンクリート工

外部保護材基礎均しコンクリートの打設方法は、人力打設とする。

(1) コンクリート使用量

コンクリート使用量の補正は、次表とする。

$$\text{使用数量 (m}^3\text{)} = \text{設計数量 (m}^3\text{)} \times (1+K)$$

K：補正係数 (=0.04)

(2) 施工歩掛

1) コンクリート打設・養生

① コンクリートの人力打設歩掛は、次表を標準とする。

表- 5.2.1 コンクリート人力打設歩掛 (10m³当り)

名 称	単 位	数 量
世話役	人	0.57
特殊作業員	〃	0.79
普通作業員	〃	1.25
諸雑費率	%	7

(注) 1. 人力運搬車による小運搬を必要とする場合は、小運搬距離15m以下で、普通作業員1.3人/10m³を加算する。
2. 上表にはシュート・ホップの架設、移設等の作業を含む。
3. 諸雑費は、シュート・ホップ・パイプ・パイププレート損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

② コンクリートの養生における歩掛は、次表を標準とする。

表- 5.2.2 養生歩掛 (10m³当り)

名 称	単 位	数 量
普通作業員	人	0.30
諸雑費率	%	17

(注) 諸雑費は、シート・養生マット・角材・パイプ、散水等に使用する機械の損料及び電力に関する経費等に費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2) 型枠設置・撤去

型枠の製作・設置・撤去に掛かる施工歩掛は、次表を標準とする。

表- 5.2.3 人力打設歩掛 (10m² 当り)

名 称	単 位	数 量
世話役	人	0.1
型枠工	〃	1.0
普通作業員	〃	0.4
諸雑費率	%	18

(注) 1. 上記歩掛には、剥離剤塗布及びケレン作業を含む。
2. 諸雑費は、型枠及び剥離剤等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(3) 単価表

1) 外部保護材基礎均しコンクリート工

①コンクリート 10m³ 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表- 5.2.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
コンクリート		m ³		
養生		式	1	
諸雑費		〃	1	表- 5.2.1
計				
1.0m ³ 当り				

②養生 10m³ 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普通作業員		人		表- 5.2.2
諸雑費		式	1	〃
計				
1.0m ³ 当り				

③型枠製作・設置・撤去 10m² 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表- 5.2.3
型枠工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
計				
1.0m ² 当り				

5.3 上下流面外部保護材組立工

(1) 壁面材（軽量鋼矢板）組立歩掛

上流側壁面材組立工歩掛りは、次表を標準とする。

表- 5.3.1 組立・調整歩掛 (10m²当り)

名 称	単 位	基礎部	壁面部
世話役	人	0.2	0.1
普通作業員	人	1.4	0.7
諸雑費	%	1.0	1.0

- (注) 1. 基礎部は、基礎コンクリート上面を基準に、直高さ1mの範囲とする。
 2. 壁面部は、基礎部以外の範囲とする。
 3. 諸雑費は壁面材や腹起し及び敷きモルタルやライナープレート等の調整費用であり、労務費の合計額に上表の諸経費率を乗じた金額とする。

(2) 単価表

1) 壁面材（軽量鋼矢板）基礎部組立・材料単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
基礎部組立		m ²		基礎部組立単価表
壁面材	軽量鋼矢板	m ²		
諸雑費		式	1	
計				
1.0m ² 当り				

2) 壁面材（軽量鋼矢板）壁面部組立・材料単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
壁面部		m ²		壁面部組立単価表
壁面材	軽量鋼矢板	m ²		
諸雑費		式	1	
計				
1.0m ² 当り				

3) 基礎部 10m²当り組立単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表- 5.3.1
普通作業員		人		〃
諸雑費		%		〃
計				
1.0m ² 当り				

4) 壁面部 10m² 当り組立単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表- 5.3.1
普通作業員		人		〃
諸雑費		%		〃
計				
1.0m ² 当り				

(3) 壁面材（コンクリートブロック）組立歩掛

下流側壁面材組立工歩掛りは、次表を標準とする。

表- 5.3.2 組立・調整歩掛 (10m² 当り)

名 称	単 位	数 量					
		垂 直	1 分	2 分	3 分	4 分	5 分
世話役	人	0.09	0.10	0.11	0.11	0.12	0.12
ブロック工	人	0.39	0.42	0.44	0.46	0.49	0.51
特殊作業員	人	0.19	0.21	0.22	0.23	0.24	0.25
普通作業員	人	0.19	0.21	0.22	0.23	0.24	0.25
ラフテレーンクレーン運転	日	0.19	0.21	0.22	0.23	0.24	0.25
諸雑費	%	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

(注) 1. 諸雑費は敷きモルタルやライナープレートの調整等およびラジェットレンチ等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸経費率を乗じた金額とする。

2. ラフテレーンクレーンは賃料とする。

(4) 単価表

1) 壁面材（コンクリートブロック）滑面部組立・材料単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
壁面材組立		m ²		
壁面材	滑面部	m ²		
諸雑費		式	1	
計				
1.0m ² 当り				

2) 壁面材（コンクリートブロック）擬石部組立・材料単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
壁面材組立		m ²		
壁面材	擬石部	m ²		
諸雑費		式	1	
計				
1.0m ² 当り				

3) 壁面材 10m² 当り組立単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表- 5.3.2
ブロック工		人		〃
特殊作業員		人		〃
普通作業員		人		〃
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジャブ型 25 t 吊	日		〃
諸雑費		%		〃
計				
1.0m ² 当り				

5.4 内部材製造工

本項目は、「国土交通省土木工事積算基準」9章. 砂防 ④砂防ソイルセメント工に準ずる（各年度で発行される最新版に準拠）。

5.4.1 混合材料

(1) セメント

本積算資料では、セメント投入に大型土のう袋を用いる事を標準としており、他の方法を用いる場合はそれに掛かる費用を計上する。また、セメント添加量には、設計数値に6.0%の割増しを考慮する。

$$N = B \times (1 + K)$$

N : セメント使用量 (t)

B : 設計量 (t)

K : ロス率 (割増係数)

(2) 主材料

現地発生土砂を使用する場合、その土質に応じた土砂変化率を用いる。また、クラッシュラン等を使用する場合、必要量は設計数値に27%の割増しを考慮する。

(3) 改良材

現地発生土砂に混合する改良材（購入材料を除く）は、その材料に応じた割増を行い、必要に応じて運搬費を別途考慮する。また、クラッシュラン等の購入材を用いる場合、必要量は設計数値に27%の割増しを考慮する。

5.4.2 内部材製造・運搬

(1) 土量表示

土量は、締固め状態における量で表示する。

(2) 編成人員

内部材製造に必要な日当り編成人員は、次表のとおりとする。

表- 5.4.1 日当り編成人員構成

名 称	工種	単 位	数 量
世 話 役	混合	人	1
特殊作業員			1
普通作業員			1

(3) 日当り施工量

内部材施工の日施工量については、次表を標準とする。

表- 5.4.2 日当り施工量

名 称	単 位	数 量
内部材製造 (バックホウ混合)	m ³	171

- (注) 1. 歩掛は、粒径処理土投入、セメント投入、攪拌混合、混合材料積込までを含む。
2. 日当り施工量は、製造する混合材料量とする。
3. 混合材料量は、締固め状態における量で表示する。

(4) 諸雑費

諸雑費は、用水および電力に関する経費であり、労務費の合計に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表- 5.4.3 諸経费率

諸経费率	7 (%)
------	-------

(5) 単価表

1) 内部材製造 100m³ 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値)クローラ型・クレーン機能付き 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)吊能力 2.9t	日	100/D	
世話役		人	1×100/D	表- 5.4.1
特殊作業員		人	1×100/D	表- 5.4.1
普通作業員		人	1×100/D	表- 5.4.1
使用材料	セメント(注)2	t		(注)1
	改良材	m ³		
諸雑費				労務費合計の7%
諸経費		式	1	端数調整
合 計				
1.0m ³ 当り				

(注) D：日当り施工量

1. 改良材を必要とする場合は、これについても別途計上する。
2. セメントは、高炉セメントB種を標準とする。なお、使用量には、6%の割増率を考慮する。
3. 諸雑費は、用水および電力に関する経費である。

5.4.3 ダンプ運搬

ダンプ運搬は、「国土交通省土木工事積算基準」9章. 砂防 ①土工による（各年度で発行される最新版に準拠）。

5.4.4 内部材施工（敷均し・締固め）

(1) 土量表示

土量は、締固め状態における量で表示する。

(2) 編成人員

内部材施工（敷均し・締固め）に必要な日当り編成人員は、次表の通りとする。

表- 5.4.4 日当り編成人員構成

名 称	工種	単 位	数 量
世話役	敷均し 締固め	人	1
特殊作業員			1
普通作業員			2

(3) 日当り施工量

内部材施工の日施工量については、次表を標準とする。

表- 5.4.5 日当り施工量

名 称	単 位	数 量
内部材施工	m ³	128

- (注)1. 歩掛は、敷均し、締固め、養生、打継目処理までを含む。
 2. 混合材料量は、締固め状態における量で表示する。
 3. 養生は、施工箇所をシートで覆うことを標準とするが、これにより難しい場合は、「第5章コンクリート工①コンクリート工」による。
 4. 打設面処理は、打継面の清掃のみを標準とし、セメント散布が必要な場合は、材料費を別途計上する。

(4) 諸雑費

諸雑費は、タンパおよびランマの運転経費および養生の材料費、打継面処理の労務に関する費用であり、労務費の合計に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表- 5.4.6 諸雑費率

諸雑費率	5 (4) (%)
------	-----------

- (注) 施工箇所をシートで覆う養生が不要な場合は () 内の数値を使用する。

(5) 単価表

1) 内部材施工（敷均し・締固め）100m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ運転	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	日	100/D	(注)1
振動ローラ	排出ガス対策型（第1次基準値） 搭乗式・コンバインド型 3.0~4.0t	日	100/D	(注)1
世 話 役		人	1×100/D	表- 5.4.1
特殊作業員		人	1×100/D	表- 5.4.1
普通作業員		人	2×100/D	表- 5.4.1
諸雑費		%	5.0	(注)2
諸経費		式	1	端数調整
合 計				
1.0m ³ 当り				

(注) D：日当り施工量

- 敷均し、締固め作業の仕上り厚さは、0.25mを標準とする。
- 施工箇所をシートで覆う養生が不要な場合は4.0%の数値を使用する。

5.4.5 内部材製造・施工機械運転単価表

機械名	規 格	適用単価表	指定事項
バックホウ (粒径処理)	排出ガス対策型(第2次基準値)・クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	機-18	運転労務費 →1.0 燃料消費量 →112 機械損料数量→1.71
バックホウ (攪拌混合)	排出ガス対策型(第2次基準値)・クローラ型・クレーン機能付き 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	機-18	運転労務費 →1.0 燃料消費量 →116 機械損料数量→1.71
ダンプトラック	普通 10 t 積	機-22	運転労務費 →1.0 燃料消費量 →92 機械損料数量→1.23
バックホウ (敷均し)	排出ガス対策型(第1次基準値)クローラ型山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	機-28	運転労務費 →1.0 燃料消費量 →22 機械損料数量→1.52
振動ローラ (締固め)	排出ガス対策型(第1次基準値)・搭乗式・コンバインド型 3~4t	機-28	運転労務費 →1.0 燃料消費量 →10 機械損料数量→1.45

5.4.6 粒径処理(現地材ふるい分け)

現地発生土砂および改良材などの混合材料のふるい分けに掛かる費用は、以下を標準とする。ただし、積込み・運搬に関する費用は含んでいないため、「第9章砂防 ①土工」に準拠し、必要に応じて計上する。

(1) 土量表示

土量は、ほぐした状態における量で表示する。運転1日当り土工量を締固めた状態に換算する場合は、土量換算係数(f)を用いて換算する。

(2) 編成人員

内部材製造に必要な日当り編成人員は、次表のとおりとする。

表- 5.4.7 日当り編成人員構成

名 称	工種	単 位	数 量
世 話 役	混合	人	1
普通作業員			1

(3) 日当り施工量

粒径処理（現地材ふるい分け）日施工量は、次表を標準とする。

表- 5.4.8 日当り施工量(m³/日)

粒径処理率 (%)	40 を越え 45 まで	45 を越え 50 まで	50 を越え 60 まで	60 を越え 80 まで	80 を越え 100 まで
日当り施工量	30	37	47	68	96

(注) 1. 対象土質は、砂質土および礫質土であり、土質条件が異なる場合は別途考慮する。

2. 日当り施工量は、粒径処理後土量を示す。

3. 粒径処理率は次式による。

$$\text{粒径処理率 (\%)} = (\text{粒径処理後土量}) / (\text{粒径処理前土量})$$

(4) 諸雑費

諸雑費は、スケルトンバケットの損料であり、労務費の合計に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表- 5.4.9 諸雑費率

諸雑費率	5 (%)
------	-------

(5) その他

目視によりふるい分け残留率（粒径処理後土量／粒径処理前土量）が 60%を下回るような場合は、作業効率を考慮し自走式スクリーン・振動式グリズリスクリン等によるふるい分けも検討する。機種変更をする場合は、費用を別途計上する。

(6) 単価表

1) 粒径処理（現地材ふるい分け）100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運転	排出ガス対策型（第2次基準値）・ クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	日	100/D	表- 5.4.8
世話役		人	1×100/D	
普通作業員		人	1×100/D	
諸雑費		式	1	労務費合計の 5%
諸経費		式	1	端数整理
計				
1.0m ³ 当り				

(注) D：日当り施工量

5.5 コンクリート打設工

コンクリート打設工は、以下に示す施工に適用する。また、打設方法はクレーン車打設とする。

- ① 水通しコンクリート
- ② 天端保護コンクリート

(1) コンクリート使用量

コンクリート使用量の補正は、次表とする。

$$\text{使用数量 (m}^3\text{)} = \text{設計数量 (m}^3\text{)} \times (1+K)$$

K：補正係数 (=0.04)

(2) 施工歩掛

1) コンクリート打設・養生

コンクリートのクレーン車打設歩掛は、次表を標準とする。

表- 5.5.1 コンクリート打設歩掛 (100m³当り)

名称	規格	単位	日打設量	
			50 未満 (m ³ /日)	50 以上 150 未満 (m ³ /日)
世話役		人	1.5 (1.5)	1.0 (1.0)
特殊作業員		〃	4.4 (4.4)	2.7 (2.7)
普通作業員		〃	5.8 (4.9)	4.1 (3.2)
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジャブ型 25 t 吊	日	1.7 (1.7)	0.9 (0.9)
諸雑费率		%	23 (13)	30 (15)

(注) 1. 上表の労務歩掛は、コンクリート打設・養生・打継面清掃等を含むものである。

2. 諸雑費は、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。ただし、諸雑費として計上する金額は、上限値とする。

なお、諸雑費に含まれる内容は次のとおりである。

〔諸雑費〕

養生マット、コンクリートバケット損料、パイプレータ損料、水中ポンプ損料、高圧洗浄機損料、電力に関する経費。

3. バケット容量は、1.0m³を標準とし、これにより難しい場合は、別途計上するものとする。

4. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

5. 特殊養生の場合は () 内の数値を適用し、養生に掛かる費用は別途計上するものとする。

2) 型枠設置・撤去

木製型枠の設置・撤去，ケレン剥離剤塗布に掛かる施工歩掛は，次表を標準とする。

表- 5.5.2 木製型枠・設置・撤去・ケレン剥離剤塗布施工歩掛（100m²当り）

名 称	規 格	単 位	数 量
世話役		人	1.1
型枠工		人	21.5
普通作業員		人	5.8
諸雑费率		%	26

(注) 1. 諸雑費は，型枠用合板，型枠用金物，組立支持材，ケレン剥離剤および電気ドリル，電動ノコギリ損料，電力に関する経費，溶接機，仮設材の持上（下）機械に要する費用であり，労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3) 足場設置・撤去

高さ 2m以上で，外部型枠，内部型枠の設置・撤去足場を設置する場合に用い，その歩掛は次表を標準とする。

表- 5.5.3 足場設置及び撤去歩掛（設置延長 10m当り）

名 称	規 格	単 位	数 量
世話役		人	0.1
とび工		人	0.3
普通作業員		人	0.3
諸雑费率		%	18

(注) 1. 諸雑費はキャットウォーク，丸パイプ，直交クランプ，板付布板，養生シート，番線等の費用であり，労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 高さ方向の標準設置間隔は 1.8mとする。

(3) 単価表

1) 天端保護・水通しコンクリート

① コンクリート打設・養生 100m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表- 5.5.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
コンクリート		m ³		
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 油圧伸縮ジャブ型 25 t 吊	日		表- 5.5.1
諸雑費		式	1	
計				
1.0m ³ 当り				

② 型枠製作・設置・撤去, ケレン剥離剤塗布作業 100m²当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表- 5.5.2
型枠工		人		〃
普通作業員		人		〃
諸雑費		式	1	〃
計				
1.0m ² 当り				

③ 足場設置及び撤去・設置延長 10m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表- 5.5.3
とび工		人		〃
普通作業員		人		〃
諸雑費		式	1	〃
計				
1.0m当り				

5.6 水抜き暗渠設置工

(1) 施工歩掛

水抜き暗渠（ボックスカルバート）の据付歩掛は、次表を標準とする。
 なお、他の排水施設を用いる場合は、別途計上する。

表- 5.6.1 水抜き暗渠設置工歩掛 (10m当り)

製品等		2.0m/個	
名称	単位	0<内空幅≤1.25 0<内空高≤1.25	1.25<内空幅≤2.5 1.25<内空高≤2.5
世話役	人	0.6	1.1
特殊作業員	人	0.4	0.7
普通作業員	人	1.3	2.4
ラフテレーンクレーン運転	日	0.3	0.6
諸雑费率	%	11	11

- (注) 1. 本歩掛で対象としている製品は、PC鋼材を使用しない場合であり、1ブロックを1部材で構成するボックスカルバートである。
 2. 歩掛は、運搬距離30mまでの小運搬を含むものであり、床堀、埋戻し、残土処理は含まない。
 3. 内空断面が台形タイプの場合やインバート形状の場合の内空高、内空幅は最大値とする。
 4. ラフテレーンクレーンは賃料とし、規格は表- 4.2.7による。
 5. 諸雑費は、労務費とラフテレーンクレーン賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 6. 諸雑費には、レバーブロック・油圧ジャッキ（ポンプを含む）・グラウトポンプ・ミキサーの損料、敷モルタル・目地モルタル、グラウト材等の材料を含む。

(2) 単価表

1) 水抜き暗渠設置工

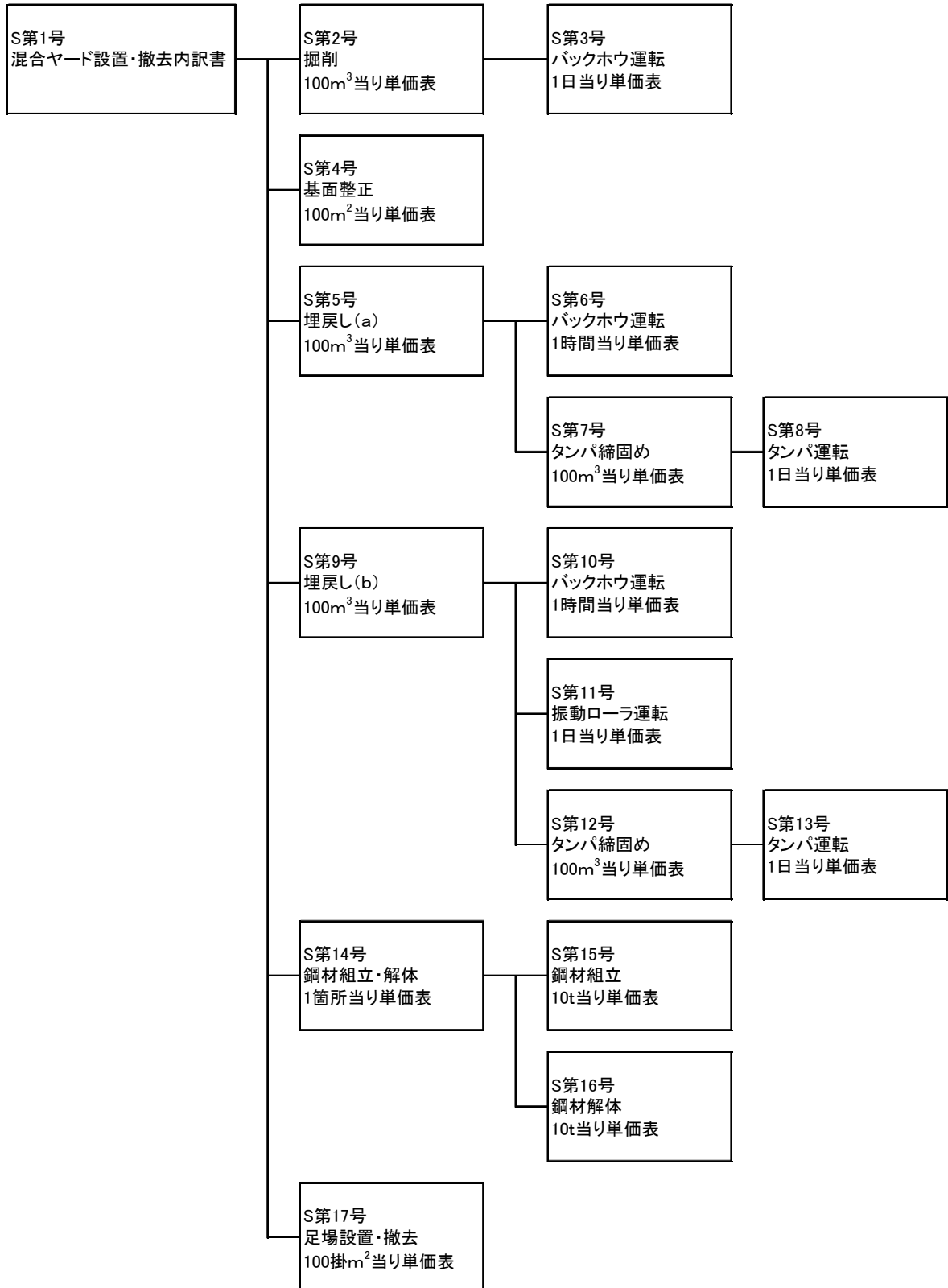
① 水抜き暗渠（ボックスカルバート）据付10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表- 5.6.1
特殊作業員		人		〃
普通作業員		人		〃
ボックスカルバート	内空幅×内空高×長さ	個		
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジャブ型 25 t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				
1.0m当り				

6 単価表及び内訳表

6.1 仮設工（参考）

(1) 積算フロー



(2) 単価表

1) 混合ヤード設置・撤去内訳書

S 第 1 号 表- 6.1.1 混合ヤード設置・撤去内訳書

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
掘削		m ³				S 第 2 号単価表
基面整正		m ²				S 第 4 号単価表
埋戻し (a)		m ³				S 第 5 号単価表
埋戻し (b)		〃				S 第 9 号単価表
鋼材組立・解体		t				S 第 14 号単価表
足場設置・撤去		掛m ²				S 第 17 号単価表
計						

S 第 2 号 表- 6.1.2 掘削 100m³ 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
バックホウ運転	排出ガス対策型・クロー型(第1次基準値)山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	日				S 第 3 号単価表
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ³ 当り						

S 第 3 号 表- 6.1.3 バックホウ運転 1 日 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
運転手 (特殊)		人				
燃料費	軽油	リットル				
機械損料		供用日				
諸雑費		式	1			
計						

S 第 4 号 表- 6.1.4 基面整正 100m² 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
普通作業員		人				
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ² 当り						

S 第 5 号

表- 6.1.5 埋戻し (a) 100m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
普通作業員		人				
バックホウ運転	排出ガス対策型・カー型(第1次基準値)山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	h				S 第 6 号単価表
タンパ締固め	60~80kg	m ³				S 第 7 号単価表
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ³ 当り						

S 第 6 号

表- 6.1.6 バックホウ運転1時間当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
運転手(特殊)		人				
燃料費	軽油	リットル				
機械損料		h	1			
諸雑費		式	1			
計						

S 第 7 号

表- 6.1.7 タンパ締固め100m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
普通作業員		人				
タンパ運転	60~80kg	日				S 第 8 号単価表
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ³ 当り						

S 第 8 号

表- 6.1.8 タンパ運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
特殊作業員		人				
燃料費	ガソリン	リットル				
賃料		日				
諸雑費		式	1			
計						

S 第 9 号 表- 6.1.9 埋戻し (b) 100m³ 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
普通作業員		人				
バックホウ運転	排出ガス対策型・ローラ型(第2次基準値)山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	h				S 第 10 号単価表
振動ローラ運転	ハンドガイド式 0.8~1.1 t	日				S 第 11 号単価表
タンパ締固め	60~80kg	m ³				S 第 12 号単価表
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ³ 当り						

S 第 10 号 表- 6.1.10 バックホウ運転 1 時間当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
運転手 (特殊)		人				
燃料費	軽油	リットル				
機械損料		h	1			
諸雑費		式	1			
計						

S 第 11 号 表- 6.1.11 振動ローラ (ハンドガイド式) 運転 1 日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
特殊作業員		人				
燃料費	軽油	リットル				
賃料	ハンドガイド式 0.8~1.1 t	日				
諸雑費		式	1			
計						

S 第 12 号 表- 6.1.12 タンパ締固め 100m³ 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
普通作業員		人				
タンパ運転	60~80kg	日				S 第 13 号単価表
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ³ 当り						

S 第 13 号

表- 6.1.13 タンパ運転 1 日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
特殊作業員		人	1			
燃料費	ガソリン	リットル				
賃料		日	1			
諸雑費		式	1			
計						

S 第 14 号

表- 6.1.14 鋼材組立・解体 1 箇所当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
鋼材賃料		枚				
整備費		〃				
鋼材組立		t				S 第 15 号単価表
鋼材解体		〃				S 第 16 号単価表
諸雑費		式	1			
計						

S 第 15 号

表- 6.1.15 鋼材組立 10 t 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
世話役		人				
溶接工		人				
普通作業員		人				
ラフテレンクレーン運転	排出ガス対策型（第 1 次基準値）油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日				
諸雑費		式	1			
計						
1.0 t 当り						

S 第 16 号

表- 6.1.16 鋼材解体 10 t 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
世話役		人				
溶接工		人				
普通作業員		人				
ラフテレンクレーン運転	排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジャブ型 25 t 吊	日				
諸雑費		式	1			
計						
1.0 t 当り						

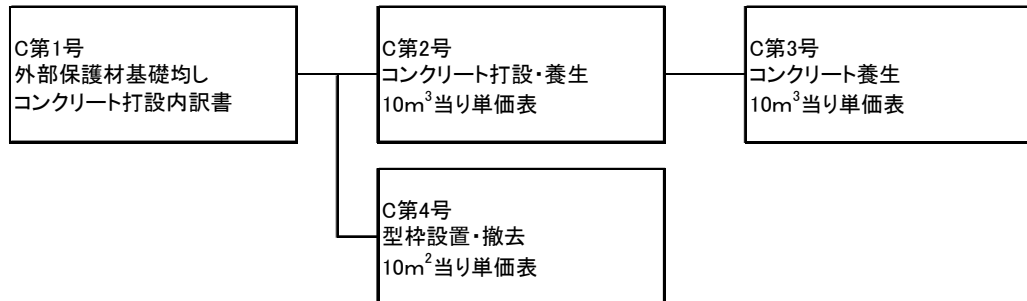
S 第 17 号

表- 6.1.17 足場設置・撤去 100 掛 m^2 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
世話役		人				
とび工		人				
普通作業員		人				
ラフテレンクレーン運転	排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジャブ型 25 t 吊	日				
諸雑費		式	1			
計						
1.0 掛 m^2 当り						

6.2 外部保護材基礎均しコンクリート工

(1) 施工フロー



(2) 単価表

1) 外部保護材基礎均しコンクリート工

C第1号 表- 6.2.1 外部保護材基礎均しコンクリート打設内訳書

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
コンクリート打設・養生		m ³				C第2号単価表
型枠工		m ²				C第4号単価表
計						

C第2号 表- 6.2.2 コンクリート打設・養生 10m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
世話役		人				
特殊作業員		〃				
普通作業員		〃				
コンクリート		m ³				
養生		式	1			C第3号単価表
諸雑費		〃	1			
計						
1.0m ³ 当り						

C第3号 表- 6.2.3 コンクリート養生 10m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
普通作業員		人				
諸雑費		式	1			
計						

C 第 4 号

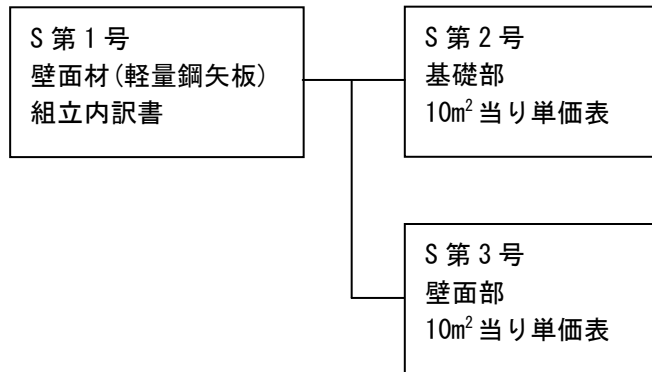
表- 6.2.4 型枠製作・設置・撤去 10m²当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
世話役		人				
型枠工		〃				
普通作業員		〃				
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ² 当り						

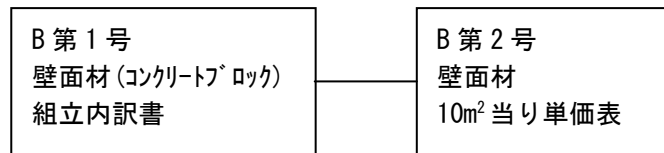
6.3 外部保護材組立工

(1) 積算フロー

1) 壁面材（軽量鋼矢板）組立



(2) 壁面材（コンクリートブロック）組立



(3) 単価表

1) 壁面材（軽量鋼矢板）組立

S 第 1 号

表- 6.3.1 壁面材（軽量鋼矢板）組立内訳書

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
基礎部組立		m ²				S 第 2 号単価表
壁面部組立		m ²				S 第 3 号単価表
壁面材（基礎部）		m ²				
壁面材（壁面部）		m ²				
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ² 当り						

S 第 2 号

表- 6.3.2 基礎部 10m²当り組立単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
世話役		人				
普通作業員		〃				
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ² 当り						

S 第 3 号

表- 6.3.3 壁面部 10m²当り組立単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
世話役		人				
普通作業員		〃				
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ² 当り						

2) 壁面材（コンクリートブロック）組立

B 第 1 号

表- 6.3.4 壁面材（コンクリートブロック）組立内訳書

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
壁面材組立		m ²				B 第 2 号単価表
壁面材（滑面部）		m ²				
壁面材（擬石部）		m ²				
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ² 当り						

B 第 2 号

表- 6.3.5 壁面材 10m²当り組立単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
世話役		人				
ブロック工		〃				
特殊作業員		〃				
普通作業員		〃				
ラフテレンクレーン運転	排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジャブ型 25 t 吊	日				
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ² 当り						

(注) ラフテレンクレーンは賃料とする。

6.4 内部材製造工

(1) 積算フロー



(2) 単価表

1) 内部材製造・運搬

I 第1号 表- 6.4.1 内部材製造・運搬内訳書

名 称	規格	単位	数量	単価	金額	摘 要
内部材製造		m ³				I 第2号単価表
ダンプトラック運搬	10t	日				I 第4号単価表
粒径処理 (現地材ふるい分け)		m ³				I 第5号単価表(必要に応じて)
計						

I 第2号 表- 6.4.2 内部材製造・運搬 100m³当り単価表

名 称	規 格	単位	単価	金額	摘 要
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値)・クローラ型・クレーン機能付山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	日			第I第3号単価表
世 話 役		人			
特殊作業員		人			
普通作業員		人			
使用材料	セメント	t			
	改良材	m ³			
諸雑費		式	1		
計					

I 第 3 号

表- 6.4.3 バックホウ運転 1 日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
運転手 (特殊)		人				
燃料費	軽 油	リットル				
機械損料	排出ガス対策型 (第 2 次基準値)・クローラ型・クレーン機能付 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	供用日				
諸雑費		式	1			
計						

I 第 4 号

表- 6.4.4 ダンプトラック運転 1 日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
運転手 (一般)		人				
燃料費	軽 油	リットル				
ダンプトラック損料	普通 10t 積	供用日				
タイヤ損耗費		〃				
諸雑費		式	1			
計						

I 第 5 号

表- 6.4.5 粒径処理 (現地材ふるい分け) 100m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	単 価	金 額	摘 要
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値)・クローラ型・山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	日			第 I 第 6 号単価表
諸雑費		式	1		
計					

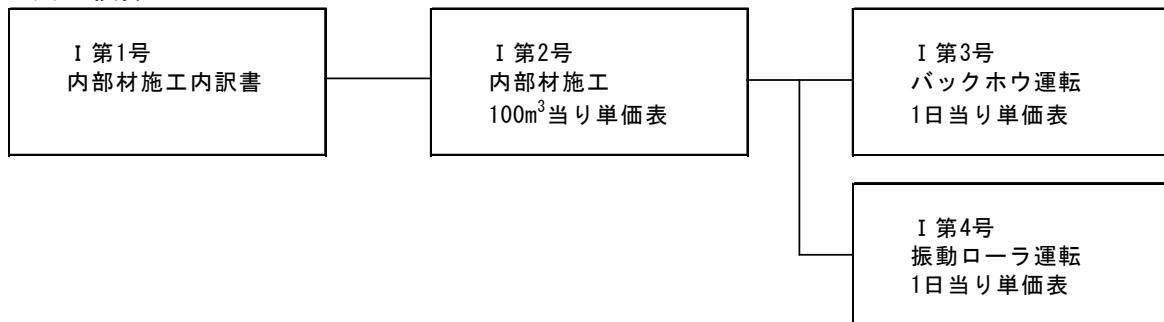
I 第 6 号

表- 6.4.6 バックホウ運転 1 日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
運転手 (特殊)		人				
燃料費	軽 油	リットル				
機械損料	排出ガス対策型 (第 2 次基準値)・クローラ型・山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	供用日				
諸雑費		式	1			
計						

6.5 内部材施工

(1) 積算フロー



(2) 単価表

1) 内部材施工

I 第1号 表- 6.5.1 内部材施工内訳書

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
内部材施工		m ³				I 第2号単価表
計						

I 第2号 表- 6.5.2 内部材施工（敷均し・締固め）混合 100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
バックホウ運転	排ガス対策型(第1次基準値)・クローラ型山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	日				I 第3号単価表
振動ローラ	排出ガス対策型(第1次基準値)・搭乗式・コンバンド型 3~4t	〃				I 第4号単価表
世話役		人				
特殊作業員		人				
普通作業員		人				
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ³ 当り						

I 第3号 表- 6.5.3 バックホウ運転（敷均し修正）1日当り単価表

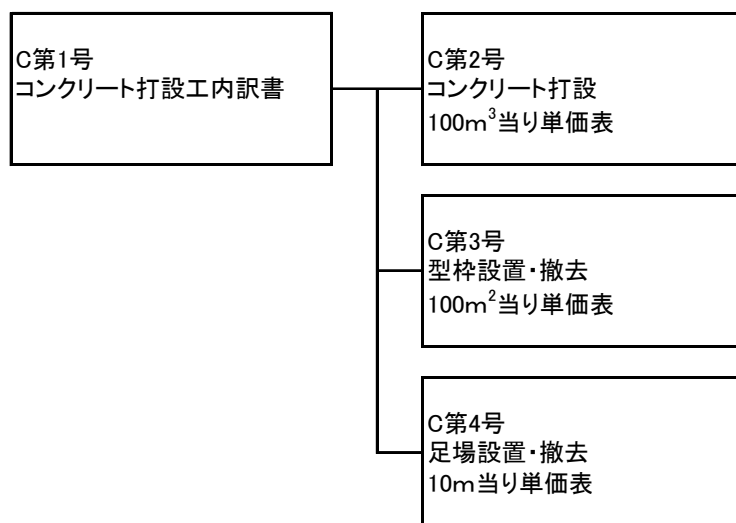
名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
運転手（特殊）		人				
燃料費	軽 油	リットル				
バックホウ賃料	排ガス対策型（第1次基準値）クローラ型山積 0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	供用日				
諸雑費		式	1			
計						

I 第4号 表- 6.5.4 振動ローラ運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
運転手（特殊）		人				
燃料費	軽 油	リットル				
振動ローラ賃料	排出ガス対策型（第1次基準値） 搭乗式・コンバインド型3～4t	日				
諸雑費		式	1			
計						

6.6 コンクリート打設工

(1) 積算フロー



(2) 単価表

1) 天端保護・水通しコンクリート

C 第 1 号 表- 6. 6. 1 コンクリート打設工内訳書

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
コンクリート打設		m ³				C 第 2 号単価表
型枠工		m ²				C 第 3 号単価表
足場工		m				C 第 4 号単価表
計						

C 第 2 号 表- 6. 6. 2 コンクリート打設 100m³ 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
世話役		人				
特殊作業員		〃				
普通作業員		〃				
コンクリート		m ³				
ラフテレンクレーン運転	排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日				
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ³ 当り						

(注) ラフテレンクレーンは賃料とする。

C 第 3 号 表- 6. 6. 3 型枠 (木製型枠設置・撤去・ケレン剥離剤塗布) 100m² 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
世話役		人				
型枠工		〃				
普通作業員		〃				
諸雑費		式	1			
計						
1.0m ² 当り						

C第4号 表- 6.6.4 足場設置及び撤去, 設置延長 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
世話役		人				
とび工		〃				
普通作業員		〃				
諸雑費		式	1			
計						
1.0m当り						

6.7 水抜き暗渠設置工

(1) 積算フロー



(2) 単価表

1) 水抜き暗渠設置工

C第1号 表- 6.7.1 水抜き暗渠設置工内訳表

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
水抜き暗渠据付		m				
計						

C第2号 表- 6.7.2 水抜き暗渠(ボックスカルバート)据付 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
世話役		人				
特殊作業員		〃				
普通作業員		〃				
ボックスカルバート	内空幅×内空高×長さ	個				
ラフエレンクレーン運転	排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日				
諸雑費		式	1			
計						
1.0m当り						

参考文献

- | | | |
|------------------|-------------|----------------------|
| 1) 国土交通省土木工事積算基準 | 平成 25 年 4 月 | 国土交通省大臣官房技術
調査課監修 |
| 2) 土木コスト情報 | 平成 25 年 4 月 | 財団法人建設物価調査会 |

発行元：SB ウォール工法研究会 事務局

所在地：〒337-0008

埼玉県さいたま市見沼区春岡 2-26-10

<http://www.sbwall.org>

電話：048-681-7530 FAX：048-681-7531